

研究へのご協力のお願い

地域に潜在する支援に結びつき難い要支援者への訪問支援における接近のための技術

—保健師および訪問看護師の比較分析から—

私は大学院で、地域メンタルヘルスの分野においての訪問支援サービスに関する研究をしています。

このたび、これまで保健師・訪問看護師の皆様が関わってこられた、「自らでは支援に結びつき難く、また支援を拒否する世帯への訪問支援」の内容を明らかにするための研究を行うことになりました。皆様の支援関係形成に関する技術を今後の精神科訪問支援サービスに有効に活用させていただきたいと考えております。研究の主旨をご理解のうえ、インタビューへのご協力をお願い致します。

この研究への参加は、皆さまの自由意思によるものです。一度研究に参加すると同意されても、皆さまの意思によっていつでも参加を取りやめることができます。回答したくない内容にはお答えいただかなくても構いません。どの場合にも、皆さまに不利益が生じることはありません。

この研究によって得られた情報の全ては、プライバシーを守り、データは他の人の目に触れないよう厳重に管理します。論文作成や学会発表においても、個人が同定されるような情報は公表しません。

調査期間は平成24年2月頃～24年8月頃を予定しております。実施にあたっては、本学の研究倫理審査委員会に諮り、皆さまに不利益のないよう、十分に配慮いたします。

研究の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。なお、この研究に関する質問やご意見がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

よろしくお願い致します。

研究者連絡先：聖路加看護大学大学院 精神看護学

博士後期課程 廣川 聖子

東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学

E-mail : 09DN006u4F-ts@slcn.ac.jp

Tel : 090-1730-7222

指導教員：萱間真美（聖路加看護大学 精神看護学教授）

「地域に潜在する支援に結びつき難い要支援者への訪問支援における接近のための技術—保健師および訪問看護師の比較分析から—」に関する研究調査の説明とご協力をお願い

早春の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

近年、精神保健医療福祉の分野では、精神科入院患者の地域移行が進み、精神科病院入院病床数の縮小が進められています。今年度から厚生労働省の新規事業として「精神障害者アウトリーチ推進事業」も始まり、精神科訪問看護も、新たな支援のあり方について考える必要があると考えられます。

今回、保健師・訪問看護師の皆様へ、精神科未治療・治療中断者をはじめとする支援に結びつき難い方々への訪問支援の内容についてインタビューをさせていただき、皆様の訪問支援技術を今後の精神科訪問支援サービスにおいて有効に活用させていただけると考えております。研究の主旨をご理解のうえ、調査にご協力頂けますようお願い申し上げます。

I. 研究の目的

本研究は、地域メンタルヘルスの分野において、医療・支援に結びつきにくく、支援関係の構築に困難を有する対象への訪問支援を行ってきた保健師ならびに訪問看護師が、支援導入時にどのような効果的な支援関係構築のための働きかけを行っていたかといった支援内容についての分析を行い、支援に拒否的な方々への支援技術の普及の可能性について検討するための資料とすることを目的とします。

II. 調査方法

<u>対象</u>	提示ケースへの支援時に訪問支援経験を 10 年以上有していらした保健師ならびに精神科訪問看護師 計 20 名程度
<u>期間</u>	平成 24 年 2 月～平成 24 年 12 月頃
<u>日時・場所</u>	ご希望される日時・場所(プライバシーが確保される場所)
<u>方法</u>	60 分程度の個人インタビューを行います。メンタルヘルス上の問題から自らでは支援に結びつき難く支援を拒否するケースへの、支援導入時における支援関係確立構築のための働きかけの内容についてお聞きます。

III. 調査の実施にあたって

- 参加されるか否かは自由です。メモとして録音をさせていただきますが、その場合は同意を得てから行います。インタビューの途中にとりやめたり、答えたくない内容にはお答え頂かなくても構いません。
- お聞かせいただいた情報は匿名化した状態で取り扱い、個人が同定されるようなことはありません。
- 調査結果につきましては、論文執筆、学会発表を行う予定です。発表された論文については、ご希望の方にお送りいたします。

研究協力の同意書

私は、下記の研究協力を行うにあたり、調査担当者から別紙説明書記載の事項について説明を受け、その内容を十分理解しましたので、本研究に協力することに同意致します。

説明事項

1. 研究目的

本研究は、保健師・訪問看護師の皆様が、必要がありながら自らでは支援を求めることがなく、また拒否的で支援関係の形成が困難な方々とそのご家族にどのように働きかけ、関係を築いていらしたかといった支援内容についての分析を行い、効果的な訪問支援技術について明らかにし、今後の精神科訪問看護に必要な教育内容について検討するための資料を得ることを目的としています。

2. 研究方法

調査は、訪問支援を行っていたケースを想起していただきながら、支援導入時の関わりの内容およびプロセスについて語っていただく、60 分程度の聞き取りによって行います。

3. プライバシーの保護

調査に関する情報は全て、プライバシーが守られる様、匿名化した状態で取り扱われ、またデータは厳重に管理され、個人が同定されるようなことはありません。

調査データは聖路加看護大学において研究者および指導教員のみが扱うこととし、分析終了後はシュレッダーによる文書裁断などの方法で処分されます。

4. 研究対象者の権利

研究に参加することに同意しても、それはいつでも撤回できます。

研究に参加しなくても、また同意を撤回しても、いかなる不利益も受けません。

希望する研究対象者には、研究結果について論文化したものを研究終了後お送り致します。

研究課題名：地域に潜在する支援に結びつき難い要支援者への訪問支援における接近のための技術
—保健師および訪問看護師の比較分析から—

研究者： 聖路加看護大学大学院 廣川 聖子

日付： 年 月 日

研究協力者：（署名）

説明者：（署名）

（聖路加看護大学 研究倫理審査委員会承認番号： 11-078 ）

研究協力 断り書

研究者：聖路加看護大学大学院 廣川 聖子 殿

私は「地域に潜在する支援に結びつき難い要支援者への訪問支援における接近のための技術—保健師および訪問看護師の比較分析から—」についての研究協力を同意しましたが、この度、協力を中止することになりましたので、通知します。

日付： 年 月 日

氏名(署名):

資料 5：フェイスシート

あなたについてお伺いします。(ご記入下さい)

1) 年齢 _____ 歳

2) 教育歴(高校卒業時から就業までの教育歴)

3) 職業歴(勤務先, 勤務年数, および業務内容)

4) その他(所有する国家資格, 等)

あなたが訪問支援に携われた、メンタルヘルス上の問題をもつ方(以後、ケース)およびその方への支援内容についてお伺いします。(ここからは口頭でお伺いします)

※ 今回、提示をお願いするケースの条件は、“直ちに生命に危険が及ぶわけではないが、何らかの事情により一般的なセルフケアに問題があり、必要がありながら自らでは健康関連行動をとらない、もしくはとれないことから、自らでは安全を保つことが困難な状態であり、かつ支援者の接近を拒否し支援を受け入れない”という特徴を有するケースのうち、精神病圏の診断に該当するケースに訪問支援活動を実施していた者(ケースの年齢、性別、同居者の有無は限定しない)とします。

- 1) 思い浮かべていただいたケースについて、年齢、性別、診断名、支援開始時の問題について教えてください。
- 2) フェイスシートに書いていただいた職歴のどの仕事の時期に、どのような立場に関わったケースですか？
- 3) ケースについての情報をどこからどのようにして得ましたか？
- 4) 情報を得てから初回訪問に行くまでに何か検討・準備をしましたか？どのような検討・準備をしましたか？
- 5) 初回訪問には、どこに、誰と行き、どんなことをしましたか？そこでどんなことを考えましたか？
- 6) 初回訪問時、訪問についてケースにどのように説明しましたか？またケースは訪問をどのように受けとめていたようでしたか？
- 7) 初回訪問時にどんな困難を感じましたか？
- 8) 初回訪問時にどんな配慮をしましたか？
- 9) 初回訪問を終える時、次の訪問にはどのようにつながりましたか？
- 10) 2回目以降の訪問ではケースはどのような反応をしましたか？家族、他関係者はどうでしたか？
- 11) 2回目以降の訪問ではどのような支援をしましたか？
- 12) 2回目以降の訪問ではどんな困難を感じましたか？どんな配慮をしましたか？
- 13) ケースとの関係に変化がみられたのはいつ頃からでしたか？どんなきっかけでしたか？
- 14) ケースの変化を感じてから、関わり方をどのように変えましたか？
- 15) ケースとのかかわりを振り返って、ケースの変化をどのように評価していらっしゃいますか？
- 16) 関わりの中でご自分自身の変化がありましたら教えてください。